



東 侯 野 12月号

東侯野小学校 学校だより 令和4年11月30日

今年の漢字

副校長 中山 純子

早いもので、今年のカレンダーも最後の1枚となります。毎年のことですが、この時期になると、私は自分なりに今年はどうな1年だったのだろうと振り返ります。特に私にとって今年は大きな変化のあった年であったので、自分が成長したところはどこなのか、足りないところはどこなのか、ゆっくり振り返りたいと思います。

ところで、12月12日は何の日だか知っていますか。答えは「漢字の日」。毎年「いい字」を少なくとも「一字」は覚えてほしいという願いをこめて、12（いいじ）月12（いちじ）日の語呂合わせで定められたそうです。この日前後に、「今年の漢字」が発表されることをみなさんご存じですか。「今年の漢字」は、1995年（平成7年）から始まっていて、その年をイメージする漢字一字を日本全国より公募し、その中の最も多かった漢字一字を、その年の世相を表す漢字として京都の清水寺で発表しています。ちなみに昨年度は「金」。東京オリンピック・パラリンピックにおける日本人選手の金メダルラッシュ。大谷翔平や藤井聡太、松山英樹による金字塔の打ち立て、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う支援金の支給などが選考理由として挙げられました。一昨年は「密」。これは、理由は言わなくても分かると思います。今年はどうな漢字が選ばれるのでしょうか。みなさんも考えてみてください。

そして、ぜひ自分のこともしっかり振り返ってほしいと思います。自分自身が頑張ったことやうまくいったこと、逆にもう少しだったことを自分なりに思い返してみることで分かってくることがあると思います。何がよかったのか、うまくいかなかったことはどうすればよかったのか・・・次にどうしたらよいかを考えることはとても大切です。ここで大切なことは、「反省」ではなく、「振り返り」をすることです。「反省」は、すでに起こってしまったことに対して、原因や責任を探すことです。そこから一歩進んで、次にどうしたらよいかを考えることが「振り返り」です。

自分の言動や行動を客観的に振り返ることは、よりよい行動へとつながります。自分自身の成長へとつながるのです。今年の自分を漢字一文字で表すと、何になりますか。そして、来年はどんな自分になりたいですか。